

みどり

緑のかけはし

<第6号>

〒981-8555

仙台市青葉区堤通

雨宮町1番1号

東北大学農学部

農学研究科

国際交流委員会

No.6 July.2006

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



ようしゅうだいがくほうもんき 揚州大学訪問記



のうがくけんきゅうかちょう 農学研究科長
のうがくぶちょう 農学部長、
どうぶつえいようせいかがく 動物栄養生化学
どうぶついでんいくしゅがく 動物遺伝育种学
きょうじゅ 教授
じよきようじゅ 助教授

あき ば ゆき お
秋 葉 征 夫
すず き けい い
鈴 木 啓 一

とうほくだいがくのうがくけんきゅうか さくねん ねん ようしゅうだいがくどうぶつかがくぎしゅがくいん がくじゅつこうりゅうきょうてい ていけつ さくねん がつ このか
東北大学農学研究科は昨年（2005年）に揚州大学動物科学技術学院と学术交流協定を締結した。昨年12月9日
ようしゅうだいがくどうぶつかがくぎしゅがくいん ちんこつこうがくいんちようちようこつ きょうじゅ のうがくけんきゅうか らいがく きょうていしよ か
揚州大学動物科学技術学院の陳国宏学院長、趙国琦教授が農学研究科に來学され、協定書を交わすとともに、陳
がくいんちよう ようしゅうだいがく がいよう どうぶつかがくけんきゅう じょうきよう しょうがかい
学院長から揚州大学の概要と動物科学研究の状況の紹介をいただいた。

こんかいのようしゅうだいがくほうもんき じよき ていけつ きねん ひようけいほうもん あき ば ゆき お
今回の揚州大学訪問は上記の締結を記念しての表敬訪問であり、秋葉研究科長、山口高弘教授、鈴木啓一助教授の
めい ほうもん
3名が訪問した。

へいせい ねん がつ にち せんだい しゅつぱつ ごご じ しやんはい どうちやく ちようこつ きょうじゅ でわか う くるま じかん
平成17年5月11日に仙台を出発して午後6時に上海に到着し、趙国琦教授の出迎えを受け、車で4時間をかけて
ようしゅうし どうちやく がつ にち ごぜんちゆう ちようきょうじゅ ちんきょうじゅ あんない ようしゅうしな い けんがく ちゆうしよく ご
揚州市に到着した。5月12日の午前中は趙教授と陳教授の案内で揚州市内を見学し、昼食後には大学キャンパスを
あんない とく どうぶつけい けんきゅうしつ おおがた こがた じっけんせつび じっけんきかい よさん かはいび きょういくけんきゅう たい いき
案内された。特に動物系の研究室では大型・小型の実験設備や実験器械が予算化配備され、教育研究に対する意気込
みがか強く感じられた。



ようしゅうだいがくしんあんふくがくちよう ひようけいほうもん
揚州大学焦新安副学長への表敬訪問

ようしゅう にほん ふか まち がんじんわじょう
揚州は日本とゆかりの深い街であり、鑑真和上の
こきょう し にほん せいねんそ
故郷としても知られている。唐の時代、日本人青年僧
こんせい がんじんわじょう こうれい がつきょう
に懇請された鑑真和上は、高齢にもかかわらず、仏教
かいりつ つた にほん む ぼうふう
の戒律を伝えるために日本に向かったが、暴風雨な
ごんなん なんど そうぐう しつめい ねん ご
どの困難に何度も遭遇し、失明しながらも12年後に
にほん たど つく に どうしやうだいじ こんりゅう
日本に辿り着いた。わが国では唐招提寺を建立して
ぶつぼう ひろめ ねん なら な ようしゅうしな
仏法を広め、763年に奈良で亡くなった。揚州市内の
きたがわ たど だいまうじ がんじん てら だいまうじ がん
北側にある大明寺は鑑真ゆかりの寺で、大明寺には鑑
じん きねんどう どうしやうだいじ おな がんじんわじょう
真記念堂があり、唐招提寺にあるのと同じ鑑真和上の
ぞう ちんざ
像が鎮座していた。

ごご じ ぶん じかん ようしゅうだいがく しょうしんあんふくがく
午後5時30分から1時間、揚州大学の焦新安副学

長との会談を行い、今後とも両大学間で学術交流を進めることで合意した。副学長の話では、揚州大学は1992年から10年間、中国内の大学の改革モデル校として6つの総合大学の1つとして選ばれている。農学や教員養成について長い歴史のある大学だが、現在、軍事以外の24の学部を有し、学生数3万人の他、短大に2万5千人の学生が在学している。大学院修士課程（3年）と博士課程の院生数は3千人である。農学関係では農学、畜産学、獣医学がある。全国2500の大学の中で56-57位の順位にある。畜産関係では、遺伝育種の分野ですでに豚では梅山豚、家禽では揚州鶏やアヒルなどを造成しているが、これからは抗病性育種などを期待したいと述べた。夕刻には、揚州大学主催のレセプションが開かれた。

5月13日の午前9時から12時まで動物科学技術学院で記念シンポジウムが行われ、秋葉研究科長が東北大学および農学研究科の教育研究の状況を紹介するとともに、秋葉教授、山口教授、鈴木助教授がそれぞれの専門分野の研究紹介の講演を行った。講演終了後、秋葉、山口、小原教授に対する名誉教授の称号が授与された。午後は家禽の飼育農場の視察を行った。夕刻に大学に戻ると、全国の大学の中で揚州大学が優秀校として表彰されたことに対する祝賀会が準備され、学生企画による歌や寸劇が行われ、私たちもこの祝賀会に招待された。外では花火が打ち上げられ夜遅くまで祝の行事が行われた。

5月14日には、陳学部長夫妻の招待で朝食を取り、再び車で高速自動車道を上海に向かい、午後の上海市内見学を終えて、5月15日に仙台に帰着した。



焦新安副学長との会談



動物科学技術学院教授との連携協議

留学生紹介

農学部および農学研究科には平成18年4月現在、25名の外国人留学生在籍しています。

事項

- | | | | | | | | |
|-------|-------|---------|----------|----------|--------|----------|---------|
| 1. 国籍 | 2. 年齢 | 3. 在籍課程 | 4. 所属研究室 | 5. 研究テーマ | 6. 出身校 | 7. 趣味・特技 | 8. 自己紹介 |
|-------|-------|---------|----------|----------|--------|----------|---------|

(06. 4. 1 現在)

Li Yi-Chin 林宜瑾

- 台湾
- 22歳
- 学部3年生
-
- 未定
- 高雄市私立道明高級中学（日本の高校相当）
- バスケットボール、バレーボール、音楽鑑賞
- 台湾出身のリンです。現在学部生で生物化学系に所属しています。日本の文化が好きで、専門の知識を身に付けながら、日本での生活を体験したいと思って留学することを決めました。これからも宜しくお願い致します。



- 読書、音楽鑑賞
- 私は留学生として、去年の4月に日本に参りました。日本では研究だけでなく、日本人の学生と国際交流がうまくできるような頑張っています。その一環として、私は日本語が上手に話せるように、たくさんの日本人の友達を作ろうと思っています。

Shi Jing-Lu 師璟璐

- 中国
- 23歳
- 学部4年生
- 生命構造化学
- ゴンオドミンAの全合成研究
- 遼寧省実験中学（日本の高校に相当）
- 旅行
- 出身地は寒い所ですが仙台の冬は苦手です。趣味は旅行です。ブログを書いています。興味のある方はぜひ見に来て下さいね！
<http://mingyang1202.blogspot.com/>
よろしくお祈りします。



NAO GAN CHAO LU 鬧干朝魯

- 中国
- 33歳
- 大学院博士前期課程
- 動物微生物学
- コリネ型細菌のプラスミド伝達
- 内蒙古大学
- 旅行
- ノガンチョロと申します。モンゴル（蒙古）民族の中国人です。2004年4月に中国内蒙古自治区（中国の一つの省で、外蒙古とは違う所です）から東北大学に参りました。1993年7月に大学を卒業してから、2004年3月まで社会人として働きましたが、今はまた学生生活をしております。



アストリッド アルディヤンティ Astrid Ardiyanti

- インドネシア
- 25歳
- 大学院博士前期課程
- 動物生理化学
- 牛のGH遺伝子多型とGH分泌
- ボゴール農業大学



スークウォン ピュモン Sookwong Phumon

- タイ
- 24歳
- 大学院博士後期課程
- 機能分子解析学
- トコトリエノールの大量分離技術
- チェンマイ大学
- 卓球
- 初めまして、僕はスークウォン・ピュモンと申します。自分分は犬が好きですが、住んでいるところではペットを飼ってはいけません。これから博士課程でがんばりたいと思います。では、皆さん宜しく。



ウォロ アニンディト スリ トウンジュン
WORD ANINDITO SRI TUNJUNG

1. インドネシア

2. 26歳

3. 大学院博士後期課程

4. 動物生殖科学

5. プタ顆粒層細胞アポトーシスに関する研究

6. ガジャマダ大学

7. 音楽鑑賞、小説を読むこと、旅行

8. インドネシアから来たウォロと申します。2003年に仙台へ来ました。仙台はとてもきれいな町だと思います。空気がきれいだし緑がたくさんあります。また、仙台は東京や大阪ほど賑やかではなくて勉強しやすい所だと思います。日本に留学してから今年で4年目です。みんなと仲良しになりたいのでどうぞよろしくお願ひいたします。



Jung Gun Ho
鄭 健 鎬

1. 韓国

2. 31歳

3. 大学院博士後期課程

4. 作物学

5. 湛水条件に対する根粒超着生ダイズ品種作系4号の生理学的反応機構

6. 韓京大学

7. テニス、スキー、旅行

8. 私は韓国から来た鄭健鎬です。出身地は京畿道安城市です。日本に留学する前に、韓国の学校（環境生態センター）でダイズの生理機能についての研究をしていました。そのうちダイズの研究が発展した日本で先進技術を研究したいと思っていました。日本で先進技術を習得し、韓国に帰って大学のダイズ研究所に入り、国民へ新鮮で安全な農産物の供給に努めるべきと考えています。希望としては両国が共同で技術交流をしながら研究ができれば両国のダイズ栽培技術の発展に寄与できると思います。私はその両国関係の橋になりたいです。



Han Young Joon
韓 榮 俊

1. 韓国

2. 31歳

3. 大学院博士後期課程

4. 動物生殖科学

5. Wnt/STAT-3系の活性化によるラット多分化能幹細胞の樹立

6. 済州大学（韓国、学部）、信州大学（修士）

7. とくにないです。テニスぐらい・・・。

8. 韓国の最南端済州道から来ました。寒い冬や花粉は今でも慣れないですが、研究室の温かい環境があって大丈夫でした。やはり東北大学は良いですね・・・。



Jang Jun Ho
張 準 浩

1. 韓国

2. 29歳

3. 大学院博士後期課程

4. 生体物理化学

5. TTXの起源生物のスクリーニングとTTXの代謝経路解明に關して

6. 慶尚大学

7. スポーツ（テニス、バスケットボールなど）

8. 私は韓国から来ました。Masterは韓国の慶尚大学大学院の海洋化学研究科海洋生物利用化学専攻海洋天然物でした。去年の10月からDoctor 1年生になりました。結婚して今、妻と娘と一緒に花壇に住んでいます。特に好きなことはないですが、スポーツなどいろいろなことを少しずつします。



Yuan Yuan
袁 媛

1. 中国

2. 27歳

3. 大学院博士後期課程

4. 沿岸生物生産システム学

5. 日本および中国におけるアカザラガイの集団構造と養殖生産に関する遺伝育種学的研究

6. 中国海洋大学

7. 映画鑑賞、バドミントン、料理、旅行

8. 私は1年半前に日本にきました。毎日実験をしながら日本の文化を日頃の会話や新聞、テレビ、映画などから学んでいます。地域のお祭りへの参加や友人との旅行など、毎日が私にとって貴重な経験です。今では塩辛と生ガキ以外の日本食は好きになりました。機会があれば京都や奈良、北



Seol Hyang Sook
薛 香 淑

1. 韓国

2. 28歳

3. 大学院博士後期課程

4. 動物栄養生化学

5. 鶏卵胞におけるエネルギー・脂質代謝関連遺伝子の機能解析

6. 大邱女子高校

7. テニス、クラリネット

8. 私は「楽しく、前向きで生きる」という信念を持って、現



在、研究を行っています。買い物が好きで、また、人と話をするのが大好きです。今後も、楽しく自分がやっていることに対して、プライドを持って進みたいと思っております。

アハマド ムジャヒド
Ahmad Mujahid

1. パキスタン
2. 34歳
3. 大学院博士後期課程
4. 動物栄養生化学
5. 栄養操作による暑熱ストレス緩和に関する研究
6. ラホール獣医大学
7. 動物愛護、バドミントン
8. 初めまして、アハマドと申します。3年前から東北大学で勉強しています。先生方も学生の皆さんもとても優しく親切なので楽しく過ごしています。パキスタンでは獣医の資格を取って飼料会社に勤めていました。今は、動物をストレスから守る食品を作るために勉強しています。好きな食べ物はてんぷらとそばです。好きな言葉は「なんと申しましょうか」です。秋葉先生の奥様から教えてもらいました。日本語がわからない時は、この言葉でごまかしています。



アーディアンシャー
ARDIANSYAH

1. インドネシア
2. 30歳
3. 大学院博士後期課程
4. 栄養学
5. 米糠のドリセラーゼ処理画分の摂取による高血圧、糖代謝、脂質代謝改善効果の検討
6. ボゴール農業大学
7. バドミントン、ダンス（インドネシアのサマン踊り）
8. 2003年10月に仙台に来て、気づかないうちに今年はもう最後の年となってしまいました。短い期間ではありますが、いろいろなことを学ぶことができました。一番身近な自分の研究室から、日本語や人間関係、日本の文化等を学ぶことができました。



タワチャイ ンガムシリ
Thawatchai Ngamsiri

1. タイ
2. 32歳
3. 大学院博士後期課程
4. 集団遺伝情報システム学
5. メコン川のナマズについて
6. カセサート大学
7. バドミントン、スキー



私はタイ出身です。私の国はとても美しく、中でも海、寺院、ビーチなどは特に美しいです。また、食べ物も大変おいしいです。皆さんどうぞタイに来てください。

Park Si Bum
朴 時 範

1. 韓国
2. 31歳
3. 大学院博士後期課程
4. 生体分子機能学
5. 海藻中の共役型高度不飽和脂肪酸の検索とその生理活性
6. 全北大学校
7. テニス
8. こんにちは！はじめまして！韓国から来日し、6年目になる朴時範と申します。韓国の地元は淳昌唐辛子味噌（コチュージャン）として知られている淳昌というところ。テニスが大好き！最近は一歳になったばかりの子供の面倒で精一杯ですが楽しい日々を過ごしています。今年以来から社会人になるため、頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



Park Sang Hyun
朴 相 賢

1. 韓国
2. 35歳
3. 大学院博士後期課程
4. 経営情報学
5. 韓国における農業環境問題とその政策的対応に関する研究
6. 大邱大学
7. 旅行
8. 私は韓国の仁川というところで生まれましたが、5歳の時に浦項市に引越しまして、そこで高校までの学生生活を送りました。今も、実家は浦項市にあります。2年半の軍隊生活は光州市にある砲兵学校で過ごしました。日本には1998年4月に来まして、今年で9年目になります。



Peng Yun
彭 雲

1. 中国
2. 35歳
3. 大学院博士後期課程
4. 資源政策学
5. 中国中部における郷鎮企業の資金調達に関する研究（湖南省の事例）
6. 中国湖南省財経学院大学
7. スポーツ・中華料理
8. 私は私費留学生として来日、農学研究科の研究生と博士課程前期二年を修了、現在後期3年も完了、博士論文を



完成するため延長中です。中国の農村工業について研究しています。途上国出身なので、母国の環境問題や、食料問題、人口問題、貧困問題など問題意識を持っています。先生方のご指導をいただき、開発経済学の立場からその問題を理解しました。若い世代の交流は中日関係の重要な一環と思いますが、私は留学生の一員として日本人学生の皆さんと一緒に中日友好に尽力したいです。

Qin Dazhong
秦 大 忠

1. 中国
2. 35 歳
3. 大学院博士後期課程
4. 経営情報学
5. 中国の農地制度と農地の効率的利用
6. 中国山東大学



7. 酒の鑑賞、漢詩の鑑賞と創作、太極拳

8. 私は孔子の故里、山東省の出身で、2000 年に来日しました。東北の人々は純朴で、前世にも御縁があったように感じています。農学部は上杉という市中心部にあるにも拘らず、学問を求めるに相応しい所です。学生の志は高遠で、キャンパス内は自然に恵まれ、木々は花が咲き、空では雲が動き、自然の美しさを感じられます。先生方は博識で親切ですし、学友たちとも仲が良いです。学問に国境は無く、互いに飽くことなく切磋琢磨するものです。心の交流を重視し、互いの長所を見習い自分の短所を補う。心から手を携え肩を並べ、末永く友好の使者として、より良い世界を築いて行きたいものです。

Giriwono Puspo Edi

1. インドネシア
2. 26 歳
3. 大学院博士前期課程
4. 栄養学
5. アルコール性肝障害を改善する食品成分に関する研究
6. ボゴール農業大学



7. テニス、パソコンプログラミング

8. 私は日本が大好きです。研究だけでなく日本の文化や音楽も知りたいし、日本人達とたくさん交流したいです。よろしくお願ひします。

Sharon Marie Garrido

1. フィリピン
2. 26 歳
3. 大学院博士前期課程
4. 栽培植物環境科学
5. ハウス土壌における植物の鉄栄養
6. ミンダナオ州立大学
7. 歌をうたうこと、読書、サイクリング
8. 私はシャロン・マリー・ガリドと申します。既婚、フィリピン出身です。2000 年にミンダナオ州立大学を卒業後、フィリピンの大学で教師として働きました。日本へは 2005 年の 4 月 4 日に来ました。初めの半年間は、東北大学の外国人留学生等特別課程で日本語を学びました。その後の半年は栽培植物環境科学講座に研究生として在籍し、4 月から大学院の学生になりました。大学や日本での生活はとても充実しています。沢山の新しい事を発見し、様々な人々と文化と出会い素晴らしい経験をしています。日本での経験の全てが貴重で価値あるものだと思います。



Wu Xiaolan
呉 晓 嵐

1. 中国
2. 29 歳
3. 大学院博士後期課程
4. 環境適応生物工学
5. ストレス誘導性遺伝子を導入した形質転換イネとシロイヌナズナの解析
6. 雲南師範大学
7. 卓球、旅行、音楽鑑賞
8. 呉晓嵐と申します。北京の中国農業大学から来ました。好きなスポーツは卓球とバレーボールなどです。他の趣味は漫画、音楽鑑賞です。機会があれば、いろいろな所に旅行に行きたいと思っています。日本でたくさんの友達を作りたいと思っていますので、皆さん、よろしくお願ひします。



Cheng Li
程 麗

1. 中国
2. 28 歳
3. 大学院博士後期課程
4. 機能分子解析学
5. テラヘルツ光のライフサイエンス応用に関する研究
6. ハルビン商業大学
7. ドラマを観ること
8. 私は Cheng Li (チェン リー) と申します。中国からの留学生です。日本へ来る前に中国黒龍江省の黒龍江大学で教師



をしておりました。今は東北大学の大学院生として研究をしています。家族は4人家族です。父、母、妹と私です。今中国に住んでいます。両親は既に退職し、妹は日系会社に勤めています。私の夢は将来、いい先生になることです。

Jiang Feng ling
江 鳳 玲

1. 中国
2. 29 歳
3. 学部研究生
4. 生体分子機能学
5. 遊離脂肪酸の分析に基づくフライ油の加熱劣化機構の解明
6. 中国福州大学
7. 旅行
8. 日本で食品の安全における優れた技術を学び、将来母国で食品の安全に貢献したいと考えております。まだ足りないことがたくさんありますので、皆様のご指導をお願い致します。



ホスニア スワフィ アブデル モホセイン
Hosnia Swafy Abdel-Mohsein

1. エジプト
2. 33 歳
3. 大学院博士後期課程
4. 資源動物群制御科学
5. 家畜飼育農場の液体および固形廃棄物の管理における最近の進展について
6. アシウト大学
7. 読書
8. 私はエジプト人学生です。国外に来たのは今回が初めてです。私と家族にとって、新しい事を沢山体験する良い機会であると思っています。私は結婚しており、2人の子供がいることをお伝えしておきます。娘のマリアンは2歳3ヶ月、息子のムスタファは5ヶ月になります。私も家族も、日本の家族の方とは是非交流したいと思っています。



Peng Lu Yan
彭 露 艳

1. 中国
2. 21 歳
3. 特別聴講学生 (学部3年生)
4. 水産資源化学
5. 無
6. 上海水産大学
7. テレビ鑑賞、読書
8. 私は上海からの留学生です。今、水産資源化学研究室に在籍しています。私はいろいろな外国人と知り合いになりたいです。どうぞ宜しくお願いいたします。



ちえじゅとう ちゃえんちようさ ちえじゅだいがくひょうけいほうもん 濟州島の茶園調査と濟州大学表敬訪問



こくさいこうりゅういんちよう さい ぐさ まさ ひこ
国際交流委員長 三 枝 正 彦

「宮廷女官、チャングムの誓い」で、我が国でも一躍有名になった、温暖な観光の島、韓国濟州島を、文科省の基盤研究 (A)「超強酸性領域における植物と土壌の相互作用」で2006年1月12日から17日まで本学栽培植物環境科学分野の三枝、伊藤、平内と静岡茶試中村の4人で訪れた。また、今回の濟州島訪問には農学研究科が1984年に、初めて学術交流協定を結んだ濟州大学農科大学校への表敬訪問も予定されていた。成田経由で濟州空港へ13日の正午過ぎに到着した。空港では濟州大学土壌学講座の玄海男教授と粧原産業 (株) の李氏が迎えてくれた。午後は霧の深い中、粧原産業の雪緑茶研究所 (南濟州郡安德面) を訪問し、金英傑常務を交え、土壌採取の打ち合わせをした。

調査打ち合わせは研究所の多くの方が日本への留学経験があり日本語で行われた。韓国では緑茶が極めて貴重で、日本の数倍するという。研究所に隣接してお茶の博物館があり、茶の歴史、茶の製法、茶器の展示と茶製品の卸売が行われていた。翌日は漢南と道順の二箇所の会社所有茶園で、茶樹の生育と土壌の調査を行った。済州島は石と火事と女性が多いといわれるが、茶園には溶岩がいたるところに露出し、それを除去して茶園造りは相当な経費と労力を要したと思われる。土壌は玄武岩質の火山灰と溶岩からなっており、粘土鉱物はアロフェンが主体であった。我が国茶園土壌の多くがpH4以下の超強酸性であるのに対し、調査茶園土壌はpH5程度で良質の茶が生産されていた。

17日はあいにくの土砂降りの中、済州大学校を表敬訪問した。学術交流協定締結当時は済州大学校農科大学であったが、現在は済州大学校応用生命科学大学に改名されていた。土壌学の玄教授から済州島の土壌と地形、文化を紹介されたのち、Song学長と本学出身の康教授、果樹園芸のHan助教授を交えて懇談した。話題のチャンゲムの誓いを皮切りに、両大学の現状、今後の学術交流や学生交流、済州島の農業問題、大学の独立行政法人化など多方面にわたったが、済州大学としては大学の独立行政法人化に反対しており、先行する日本の大学情勢に高い関心が寄せられた。新版の東北大学農学研究科英文案内、入学案内を渡し、学生派遣、ワークショップ参加、共同研究の推進を依頼した。済州島訪問中、毎夕、海鮮料理で大歓迎されたが、ナマコやアワビ、サザエ、タイ、太刀魚、ヒジキなど新鮮な海産物が極めて豊富で、利用法も異なることから水産の共同研究を推進する必要性を強く感じた。「近くて近い」韓国済州大学との交流がますます盛んになることを期待する。



島のシンボル「トルハルバン」(村の守り神のおじいさん)



溶岩の石垣と茶園風景



左から玄教授、三枝、伊藤、中村



応用生命科学大学長との懇談風景